



社会福祉法人 薄光会 広報紙

# ま ら め き



豊岡光生園の夏

第23号

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://www.k3.dion.ne.jp/~hakukou/>

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成22年9月30日

社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、太陽のしずく

ケアホームCOCO : 〒299-1607 千葉県富津市湊 1070-3

TEL 0439-67-3711

豊岡光生園 : 〒299-1742 千葉県富津市豊岡 3535-1

0439-68-1711

三芳光陽園 : 〒294-0825 千葉県南房総市上堀 280

0470-36-3211

鴨川ひかり学園 : 〒299-2854 千葉県鴨川市代 1297

04-7099-3311

湊ひかり学園 : 〒299-1607 千葉県富津市湊 934-18

0439-70-6551

# 風と語り

## 『生きる』

(一)

\*田中さんへのインタビューをもとに構成させていただきました。



私の手元にケアホーム夜勤専門員の田中さんからお借りしたアルバムがある。東部ニューギニア慰霊巡拝団に参加したときの壮年の田中さんの写真である。

田中さんの父上は、日本ニッケルに勤める電気技師だったが、今大戦で召集され、北支から戦局急を告げる東部ニューギニアへと転戦した。連合軍が反攻を開始したガナルカナル島を放棄せざるを得なかった日本軍は、東部ニューギニア方面でもしだいに追い詰められ、ガ島同様、飢餓や病にも苦しめられて多くの戦死者、戦病死者を出したのであった。それはさながら生き地獄であった。この生き地獄の中で田中さんの父上は亡くなられた。田中さんが六歳のときだった。当時の大多数の日本人がそうであったように、戦争は、田中さんの人生を大きく変えた。



今も残る旧日本軍高射砲

戦後の田中さんは、日本の「児童福祉」の黎明期そのものを生きたといつてよい。母上と兄弟たちは、郷里の親類縁者を頼ったが、長くは居られず、食うや食わずの生活の中で、母上は結核に倒れ、その若ざる命は他県にある結核療養所で、はかなく消えた。父母を失った田中さんたち兄弟は、郷里近くの



ウヱワクにある慰霊碑

(二)

孤児院に收容された。やがて、兄弟はばらばらに引き離されていく。孤児院の運営者が、自分の子供が中国で残留孤児となったというこもあって、孤児院で中国残留孤児受け入れのための事業を新たに始めたからである。何人かの子供が他の孤児院に移って行った。田中さんたち兄弟は、一緒にいると、ろくなことをしないという理由で引き離されたのである。実際、子供たちはおとなしく收容などされてはいなかった。しばしば孤児院から抜け出した。「別に目的があったからとか、自由になりたいとかの考えがあったからじゃない。ただ、ただ、出たかった。本能だろうか。」と、田中さんは言う。戦後日本の児童福祉の「事始め」が浮浪児狩りであった原型と、当の子供たちの心理が、ここにもある。そして、当時の「福祉事業」の中身もここに確かにある。田中さんの幼い弟は、なかなか夜尿が治らなかつた。いろいろと指導されたが、最後には濡らしてもそのまま放置された。弟は弟でさびしくて、兄に会いにたびたび抜け出した。ただ生きるだけの生活の中で、ひもじい思いも寒い思いもあったらうに、田中さんは、ひたす



当時多かった浮浪児の靴磨き



闇市の雑踏。当時、東京上野界限は、浮浪児(戦争孤児)たちがたむろしていた。

らに生きた。サンフランシスコの日系人が設立した「日本難民救済会」に端を発する「ラフ物資」のささやかな恩恵に浴したことも、五感をともなう田中さんの記憶には焼き付いている。給付を受けたのは、脱脂粉乳と古着だった。

(三)

こうして、子供時代を生き抜いた田中さんだったが、戦後の世相はさらなる試練を用意していた。集団就職と低賃金労働、結核の発病と療養所生活。そして、生きんがための警察沙汰。当時の底辺で生きる人々の辛酸をほとんとめた。高度経済成長期に入り、世の中が随分落ち着いたころ、田中さんは、同じような苦勞を生きてきた最愛の伴侶を得た。決して楽な生活ではなかったはずだが、ようやく自分の人生を生きられる時期を手にすることができたのであった。

(四)

「こんばんは」 夜八時、二時間近くも早く田中さんは出勤してくる。ホームの住人たちの元気な様子を確認すると、洗濯や翌朝の食事の下ごしらえをする。実は、田中さんは、倒れられて長期入院されている奥様をかかえて、ふたたび運命と戦っているのである。給料が医療費に化けていく老後の生活。だが、田中さんは言う。「戦争で父親が死ななければ、淡々とした生活だったろう。でも、それがはたして面白い人生だったかどうか。」と。田中さんの生きんがための命のほむらは、七十代にしていまだ尽きることはない。(鳥居)



集団就職

# COCO de COCO



## 「夜遊び」

のどこには、地域の回覧板がまわってきます。

先日、湊地区の祭礼の準備で「ちり花つくり」のお知らせがありました。そこで、「いつもの」のどこか住民会議が開かれ、ちり花つくり名人二名が選ばれました。当日、夕食を済ませ、地域の公民館へ出かけました。地域の奥様方に交じり、真剣にちり花つくりをする二人。和子さんは、あまりに集中しすぎて、足がしびれてしまい、しばらく立ち上がることができませんでした。ああでもない、こうでもないかと賑やかにちり花つくりと井戸端会議が行われたのでした。幸子さんは、とても楽しかったので、また行きたいと話しています。

夜遊びびびいたわけでは  
ありませんが、地域の方  
の誘いがあり、夜な夜な  
地域の盆踊りの練習に出  
かけています。「今日は、  
のどかのみなさんが踊り  
に来ていまあゝす。」と地  
域の方に紹介され、俄然、  
やる気になるみんな。夕紀子さんは、曲に合わせて  
て、身体全体を大きく揺らし、楽しそうに踊りま



す。そんな姿に、地域の方は、同じ曲を三回続け  
てかけてくれました。  
今日も夕食が終ると浴衣に着替え始めるのだ  
かの住人達です。



(井上)

## 「あねの夕食」

ある日の夕食。その日のメニューは納豆とオク  
ラとイカの三色丼。COCOの秋田谷さんは大の  
納豆嫌い！ 同じねばねばのオクラも好きでは  
ありません。納豆と言えば朝食。でも、今日はな  
んと、夕食に納豆とオクラのダブルパンチ。いつ  
も帰宅後は居室で休んだりあちらこちらで紙ち  
ぎりをしたりしている秋田谷さんが、夕食の盛り  
付けから目を離しません。

(なんて期待の大きい夕食に、納豆とオクラなん  
だよ！ 大嫌いな納豆とオクラを食べさせられ  
るのかあ?)  
不安な表情で盛り付けを見つめています。  
じつは、千原さんも納豆嫌いの「反ねばねば党」  
二人が食べられないことをちゃんと考えてくれ  
ている世話人の小川さんは、別のおかずを二人分

作ってくれているんですが、それと分かって  
いても、秋田谷さんは、

(もしも、もしもだよ。間違って納豆とオクラが  
目の前に来てしまったら……。二つある別のお  
かずは別の人のかも知れない……。いや、職  
員が意地悪して、わざと納豆とオクラを配るかも  
しれないし……。)

と、心配と疑惑で頭がいっぱいのようです。ピク  
リとも動かず、目がくぎ付けになっています。

そんな時、のんきな職員庄司がリビングにフラ  
フラと顔を出しました。すると突然、いつもとは  
違う速さで庄司の手を引っぱると、玄関から外へ  
飛び出し、車の前で「アッ！」とひと言。車のド  
アを指差しました。(車に乗るー)とアピール。  
「どこか行くの?」と庄司。

「……」。

「買い物に行くの?」と聞くと、

「アッ」とすかさず返事。

「ひょっとして。おかずを買いに行くの?」

「アッ」

秋田谷さんは、必死だったの  
です。

その後、全ての盛り付けと  
配膳が終了し、納豆とオクラ  
なしの丼が自分の前に並びと、  
いつもマイペースな秋田谷さ

んが我先に食べ始めました。安心したのか、おい  
しそうに食がすすむこと、すすむこと。

(秋田谷さんより好き嫌が多い庄司)



# 太陽のしずく



宝もの

「お仕事のしずく」  
—「はだか＝傍案」—

ごんごらごらII

(光生園洗濯場)

ジョブ活動が始まって一年半。「お仕事」への自覚というのでしょうか、皆さんの気持ちの中で大きな変化が出てきているようです。以前は単なる「お手伝い」でした。

「ねえ、ねえ、ちょっとこれ運んでよ」

「ありがとう。えらいねえ」

本人のためになるからという職員の思いと、注目され、ほめられて嬉しいという本人の気持ちとが握手をして、ほんの少しだけ「お手伝い」の機会がありました。

ジョブ活動は、「お仕事」です。失敗したり、つまりて悩んだりしながら、任されたことをやり遂げなければならぬのです。

内容はいろいろだけれど、多くの人と関わります。

とせうは、厳しい指摘もあるのです。その中で、

たくさんのお話を学んだり、気づいていきます。

「やり遂げた」という達成感もひととおりです。



自信にもつながります。

(一)

豊岡光生園の洗たく業務を担っている長井さん。実は、この仕事が気に入ってはいるのだけれど、洗濯物をたたむのが苦手なのです。

右上下肢の麻痺に加え、加齢化とともに動きにくくなってきている身体。洗濯物を床に置いたり、膝に乗せたり、たたみやすい場所、やり方を探しながらたたみます。やる気は十分なのだけれど、「もう少しきれいにたためるといいねえ、がんばろう!」と言われたり、「こつするといひよ」とたたみ直されてしまったという、厳しい現実。

長井さんには、力を精一杯出して、お仕事をしているという自信やプライドがあります。だからこそ、悔しくて悔しくて両手の指を一本ずつ立てて頭の上に乗せ、

「うあっ、うあっ」と怒りをあらわにし、職員を指さしたあと、自分の首を横に切の

(おまえは首だ)

部屋の隅っこでうずくまってしまうのです。

実は、思いどおりにならなかった時の長井さんのお決まりのアピールのしぐさです。



皆でたたみます。



そんな長井さんの姿に、良い工夫はないものかと悩んでいた職員、器具に衣類を乗せ、順番どおりに折ったり開いたりしていくと、きれいに衣類がたためるといふ便利グッズがあることを知り、それを取り入れてみることにしました。

パタパタパタと、器具を使ってたたまれた衣類を見た長井さんは…。しばらくの間、職員と衣類を交互に見て、

「てんてえ・てんてえ(先生、先生)」と、笑顔と拍手、興奮がやみません。そして、今では…。

長井さんが便利グッズの使い方を職員に教えてくれています。

長井さんにとって、便利グッズは今までの悔しさ、もどかしさを解消し、更なる自信をもたらししてくれた「宝もの」です。

長井さんの悔しさや、もどかしさに気づき、長井さんと共に乗り越えることができた、そんな経験が職員には宝ものです。

(加藤千晶)



## 『弾・暖・団』

今年の夏は暑かった。夏祭りも熱かった。

地元的一座による「南京玉すだれ」や支援学校の教諭による「和太鼓」（総勢二十数名の響きが、祭りを始まりと共に盛り上げてくれました）。

今年はオリエンタルなグループ「Y・A・A」を迎えてのミニライブが、会場一帯をステージと一体化させました。

パーカッションの響きが利用者はもちろんですが、お客様の心にドンドンと届いて、皆の体がりズムに合わせて自然に動き出し、曲を目いっぱい楽しんでいました。「うーん、最高。」

福祉施設を廻る機会が多いというY・A・Aの「岡ちゃん」達の話や、ボランティアの方々の優しさに触れ、体が弾んで心が暖まり皆が「団」となり、夏祭りのテーマ【弾・暖・団】になりました。

(川名)



## 『昼休み』

「御苦労さまでした」

昼食後の食堂掃除が終わり、元代さんの挨拶で「昼休み」を迎えます。

食堂から片付けを終えた利用者が一斉に訓練室に出てきて、各自、おもいおもいの場所へ向かいます。職員室では、ソファで新聞を読みながらくつろぐ方やCDを聴く方、文字の練習をする方、籠細工に取り組み方が席を確保しています。

訓練室では、テレビのバラエティー番組を見る方やトランプをする方がそれぞれの席を確保しています。特にジグソーパズルは、職員の多くがチャレンジしていますが、太田さんにはかきません。

彼が次々と完成させていくのをうらやましそうに見て「太田和さん、早いねえ・・・」とつぶやきながらどれだ、どこだ、まったくこうとガンバル。無情にも昼休みの終了を告げるチャイムが鳴り「終わり、終わり」と(不満気に言いながらパズルを片付ける職員と、「パズル終わり」と満足気に言いながら片付ける太田和さん。彼の明日の「昼休み」の楽しみ方はどんな事でしょうか？皆さんも食後の三十分を「ゆったり自由」に過ごしましょう。利用者と一緒に、「ねー」

(山野)



## 『男はみんな『重機』好き?』

ガーガー、ギーギー、グアラグラ、キコキコ・・・大きな古いユンボが炎天下のなかを「せーせーはーはー」しながら働いています。トラックも「ブォン、ゴー」と何度も何度も往復しています。

利用者は「ブルドーザー」と言いながら目をキラキラさせてグラウンドを眺めています。中にはテラスに出て眺める方や芝生に入り近くから眺める方もいますが、女性はほとんど無関心です。「ああ、亮太君、外に行ったよ」「機械を見に行ったんでしょう?」とあっさりした会話です。暑がりなのに炎天下の中を重機に見とれている男性たち。

「鉄の塊」と見るか、「アイアンヒーロー」と見るか?

真夏に始まった鴨川ひかり学園グラウンドの崩落防止大工事。残暑のつつく中、今日も工事の音は鳴り響いています。

(夏アキ太)



# 学園新聞



## 「私のこと好き?」

ある日、私のお尻をなでなでする人物が…  
しかもとっても上手!

「ちょっと!」と振り返るとそこには成江さん。  
ニヤニヤしながら「すけべしちゃ駄目?」とうれ  
しそう。

またある日は、「ニコニコ」笑顔で

「あんた何て名前?」

「えく忘れちゃったの?」

「何だっけ?」とかわいらしく

「何だったでしょう?」

「知らね!」と方言たっぷり

「神子だよ」

「神子さん、私のこと好き?」と手を差し出す。

またある日は、まんまるお目め…

大きく目を開き、私と目が合うと何も言っていないのに「うん、うん」と顔を振る。つられて私も「うん、うん」

こんな成江さんは音楽に踊りが大好き。アニメソングにポップス、演歌に民謡となんでもござれ。とっても楽しそうに満面の笑みで手を叩き、大きなステップで踊る。そして、友達や職員に「一緒に



に踊ろうよ!」と誘ってくる。手を引っ張られた友達も、照れながらもうれしそうに、手拍子したり体を揺らして踊る。そんな成江さんを見ているとこちらも笑顔でいっぱいになる。

「神子さん、私のこと好き?」

『うん、好きだよ!』

神子

## 「念願叶った!」

最近、湊ひかり学園では、肥満、メタボの方、糖尿病の方など、体調面でいろいろ気にかかる方が増えてきました。健康管理を考えると、食事は一番大きく関わってくるものですが、同時に利用者の皆さんにとっては、学園生活の楽しみの一つでもあります。

今回、紹介する、スチームコンベクションオーブン(略してスチコンと呼んでいます)ですが、調理温度とスチームの量を設定して、調理を行う加熱調理器で、「焼く」「蒸す」「茹でる」「炒める」「揚げる」「炊く」「煮る」など加熱調理の八割をこなす事が出来るんです。このスチコンが湊ひかり



の学園に来るまでには長い道のりがありました。高機能な分、やはり値段が高く、何度も業者に見積書をもらい、施設長に相談しました。しかし施

設長は首を横に振るばかり…。肥満解消のため、ヘルシーでおいしい料理を利用者の皆さんに食べてもらうため、何度も業者から見積書を出してもらいました。保護者の方々にも相談をさせてもらいましたが、スチコンに理解をいただいたとき、応援して下さいました。そんなやり取りが一年ほどあり、やっとの思いで湊ひかり学園にスチコンを導入する事になったのです。

まだ使い始めたばかりで、取り入れているメニューも数種類ですが、利用者の皆さんの健康と、笑顔をやりがいにし、これから少しずつ増やしていきたいと思っています。 栄養士 山野井

## 「リフト付き車輛が入りました!」



日本郵便事業株式会社様より、年賀寄附金の助成をいただき、リフト付きの送迎車輛を購入致しました。大切に使用させていただきます。どうもありがとうございます。

## \*湊ひかり学園職員ブログ

ブログを始めました! ほやき、嘆き、感動…等々、出来るだけ毎日更新していきます。

(以下は携帯用アクセスコードです)



# 光 陽

## 『二十年目の散髪』

玄関前の駐車場の端に、開園からずっとお年寄りのたちを見守ってくれている大きな椰子の木があります。開園の時に下堀地区の方から頂いたものだと思います。

以後二十年、

『雨ニモ負ケズ、

風ニモ負ケズ、

雪ニモ夏ノ暑サニモ負ケヌ

丈夫ナカラダヲモチ、

慾ハナク、

決シテ怒ラス、

イツモ静カニ笑ツテイル』

そんな感じで、伸び伸びと葉を広げてきました。



平成十九年より、夏祭りの会場が玄関前の駐車場となりました。メインのステージは、椰子の木の前に組むような配置となりましたが、そうなるに長々と伸びた葉が少々邪魔になってきました。さすがにこれだけ伸びてしまつと用務の石井さんがいかに器用といえども手に負えず、今年の夏祭りの終わるのを待って、職人さんをお願いすることとなりました。



下見に来た職人さん。

「これ、持っていったいいなら、他の仕事、ただでいいけど・・・」とのことでしたが、せっかく地元から頂いたものです。少し、心が動きましたが、剪定していただくこととなりました。

二十年目の散髪（剪定）を終えた椰子の木は、気象観測が始まって以来百三十九年間で一番暑い夏を、涼しげな表情で過ごしています。

これからも

『雨ニモ負ケズ、

風ニモ負ケズ、

雪ニモ夏ノ暑サニモ負ケヌ

丈夫ナカラダヲモチ、

慾ハナク、

決シテ怒ラス、

イツモ静カニ笑ツテイル』

そんな感じで、三芳光陽園のお年寄りたちを見守っていてください。

次の散髪（剪定）は未定ですが、インターネットで調べたら、毎年やるようなことが書いてありました。とにかく良く伸びるのだそうです。あ〜うらやましい・・・。

神谷



## 園だより

## 『シヨック』

昨年の十一月、施設長よりミッションが与えられた。それは、ここ数年の間に増加してしまっただ草直人さんの体重を減量へと導くことだった。目標は、数字にしてなんと9kg・・・。

二年ほど前、私が就労した頃の直人さんは、職員に支えられたりしながらも、時には自分の力だけで歩くことができた。それ以前はというと、もっと活動的で、ふと思いつとどこへでも移動していった。バス外出が大好きな直人さんは、窓越しにバスが見えただけで、走っていき一番のりに乗車したそう。その後、歳を重ねるごとに歩く力が少しずつ衰えていき、体重増加がそれに拍車をかけた。そしてついに、いつの頃からか車椅子にどっしり腰を降ろすようになってしまった。「このままでは、健康にも良くないし、寝たきりになりかねない。」それが施設長のミッションの真意だった

まずは食事の内容を工夫したり、歩く機会を増やすところから始めた。しかし、さすがに人生の大先輩である直人さんは『こんな若造の言うこと聞けるか！』と、ダイエット食を食べようともせず、歩いてもらおうにも一歩たりとも足を前に出してくれない。

時には、当然の抵抗とでもいうべきか、床に座りこんでしまう。私も意地になり「自分で食べたくなければ食べなくてもいい、歩きたくなければ歩かなくてもいいです！」と、毎日毎日顔を合わせてはにらみ合い、喧嘩をしていた。

そんな日々が十カ月過ぎようとしていくある日、高校を卒業したばかりの女性の実習生がやってきた。いつものことだが、このときも初々しい実習生の動きを直人さんは目で追っていた。何日か過ぎ、実習生が利用者の名前を覚えた頃のことだった。夕食を食べ終え食事テーブルより何名かの利用者がロビーへ移動している中、実習生が「直人さんも移動しますよね」と聞いてくる。少し迷った私は、「お願いします」と応える。実習生は直人さんと身長がほとんど変わらず、もしも直人さんが歩くのを拒み座り込んでしまった時に、つぶされてしまわないかと心配になったのだった。だが、予測はまったく別の展開をしていった。



実習生が「直人さん一緒に行きましょう」と直人さんの腕を支えた瞬間、一歩、二歩・・・と軽やかに歩くではないか！ 顔はにやけながら、時々視線を実習生に向ける。思わず実習生に、「・・・シヨックです・・・」とつぶやいた。

シヨックはもう一つ。

数十年後には直人さんのような自分になっているんだと想像できてしまうこともシヨックだった。

(平野)

## ☆編集後記☆

今年は五月以降、熱中症で病院に運ばれた人が四万人を超えたそうです。

深刻なのは熱帯夜にエアコンを使わず水分が不足した状態で寝ていると体温調整が難しく、「夜間熱中症」になる方が多くいることです。エアコンが嫌いだから扇風機の方が良いという方もいますが、扇風機だと熱風になり余計熱中症になりやすいとか。

熱中症は地球温暖化が影響しています。ですから、なるべく電気など節電しましょうと国が進めています。

しかし、夜間の熱中症対策にはエアコン。なんとも難しい世の中になりました。

